

The Yokohama Shinkin Bank

Semi-Annual Report



《よこしん》半期レポート
令和5年4月1日～令和5年9月30日

このまちの未来をともにつくる



横浜信用金庫

1 預金・貸出金の状況

預金残高は、個人預金・法人預金が順調に推移した結果、3月末に比べて576億円、2.8%増加し、2兆912億円（譲渡性預金含む）となりました。

貸出金残高は、地元中小企業者への円滑な資金供給に積極的に努めた結果、3月末に比べて231億円、2.0%増加し、1兆1,695億円となりました。また、特定の業種に偏ることなく、さまざまな業種のお客さまにご利用いただいております。

■預金・貸出金の残高 (単位：百万円)

	令和5年3月末	令和5年9月末	増減
預金積金	2,033,569	2,091,259	57,690
貸出金	1,146,383	1,169,566	23,183

■貸出金の業種別残高 (単位：百万円、%)

	令和 5 年 3 月末		令和 5 年 9 月末	
	残高	構成比	残高	構成比
製造業	111,324	9.7	110,745	9.4
農業、林業	1,630	0.1	1,754	0.1
漁業	27	0.0	53	0.0
鉱業、採石業、砂利採取業	-	-	-	-
建設業	192,319	16.7	198,791	16.9
電気・ガス・熱供給・水道業	126	0.0	150	0.0
情報通信業	8,148	0.7	8,275	0.7
運輸業、郵便業	43,815	3.8	44,562	3.8
卸売業	79,983	6.9	81,050	6.9
小売業	42,746	3.7	43,782	3.7
金融業、保険業	9,399	0.8	9,450	0.8
不動産業	280,646	24.4	283,195	24.2
物品賃貸業	7,747	0.6	7,846	0.6
学術研究、専門・技術サービス業	4,506	0.3	5,105	0.4
宿泊業	10,582	0.9	10,363	0.8
飲食業	27,420	2.3	27,134	2.3
生活関連サービス業、娯楽業	14,821	1.2	14,712	1.2
教育、学習支援業	6,118	0.5	6,693	0.5
医療・福祉	26,824	2.3	27,970	2.3
その他のサービス	78,077	6.8	84,277	7.2
小計	946,266	82.5	965,915	82.5
地方公共団体	8,511	0.7	12,576	1.0
個人（住宅・消費・納税資金等）	191,605	16.7	191,073	16.3
合計	1,146,383	100.0	1,169,566	100.0

(注) 不動産業には不動産賃貸業を含みます。

2 不良債権の状況

経営の透明性を高め、その健全性と安全性をご理解いただくため、不良債権の適切な開示に努めています。

不良債権残高は、3月末に比べ10億円、1.8%増加し605億円となりました。不良債権に対する備えは、担保や保証、貸倒引当金により97%が保全されています。

■信用金庫法開示債権および金融再生法開示債権の保全・引当状況 (単位：百万円)

	債権額 A	保全額 B	優良担保・保証 割手等 C	一般担保 D	貸倒引当金 E	保全率 B / A	引当率 E / (A - C - D)
破産更生債権及び これらに準ずる債権	5,165	5,165	3,370	990	804	100.00%	100.00%
	6,043	6,043	3,275	1,076	1,692	100.00%	100.00%
危険債権	51,753	50,592	41,236	7,080	2,275	97.75%	66.22%
	52,281	51,214	42,990	6,695	1,527	97.95%	58.87%
要管理債権	2,535	1,859	—	1,275	583	73.34%	46.35%
	2,228	1,676	0	1,105	571	75.25%	50.89%
三月以上延滞債権	—	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—	—
貸出条件緩和債権	2,535	1,859	—	1,275	583	73.34%	46.35%
	2,228	1,676	0	1,105	571	75.25%	50.89%
不良債権合計 F	59,454	57,618	44,607	9,346	3,663	96.91%	66.61%
	60,553	58,934	46,265	8,877	3,791	97.32%	70.08%
正常債権	1,091,878	不良債権比率 F / G					
	1,113,660						
総合計 G	1,151,333	5.16%					
	1,174,213	5.15%					

(注) 上段は令和 5 年 3 月末、下段は令和 5 年 9 月末の計数です。

3 自己資本比率（国内基準）

自己資本比率は、10.23%と、国内基準（4%）を上回る高い水準を維持しています。

（単位：百万円）

項目	令和5年3月末	令和5年9月末
普通出資又は非累積的永久優先出資に係る会員勘定の額	100,053	101,772
うち、出資金及び資本剰余金の額	1,702	1,670
うち、利益剰余金の額	98,393	100,106
うち、外部流出予定額（△）	33	—
うち、上記以外に該当するものの額	△ 8	△ 4
コア資本に係る基礎項目の額に算入される引当金の合計額	1,612	1,529
うち、一般貸倒引当金コア資本算入額	1,612	1,529
コア資本に係る基礎項目の額（イ）	101,665	103,302
無形固定資産（モーゲージ・サービシング・ライツに係るものを除く。）の額の合計額	2,219	1,962
うち、のれん及びモーゲージ・サービシング・ライツに係るもの以外の額	2,219	1,962
コア資本に係る調整項目の額（ロ）	2,219	1,962
自己資本の額（（イ）－（ロ））（ハ）	99,445	101,339
信用リスク・アセットの額の合計額	921,321	946,237
うち、経過措置によりリスク・アセットの額に算入される額の合計額	△ 909	△ 1,255
うち、他の金融機関等向けエクスポージャー	△ 909	△ 1,255
オペレーショナル・リスク相当額の合計額を8パーセントで除して得た額	44,096	44,096
リスク・アセット等の額の合計額（ニ）	965,417	990,334
自己資本比率（（ハ）／（ニ））	10.30%	10.23%

4 収益の状況

（単位：百万円）

業務純益は前年比△6億円、28.9%減少の17億円、コア業務純益は△1億円、6.5%減少の23億円となりました。

当期純利益は前年比2億円、14.7%増加の17億円となっています。

（注）

業 務 純 益＝業務収益－（業務費用－金銭の
信託運用見合費用）

コア業務純益＝業務純益＋一般貸倒引当金繰
入額－国債等債券5勘定戻

	令和4年9月期	令和5年9月期
業務収益	12,861	12,938
資金運用収益	11,008	11,032
役務取引等収益	1,736	1,816
その他業務収益	116	89
業務費用	10,460	11,234
資金調達費用	207	138
（うち金銭の信託運用見合費用）	(0)	(0)
役務取引等費用	719	727
その他業務費用	238	781
一般貸倒引当金繰入額	—	△ 82
経費	9,295	9,668
業務純益	2,400	1,705
（コア業務純益）	2,541	2,374
（コア業務純益投信解約損益除く）	2,541	2,374
経常利益	2,159	2,120
当期純利益	1,522	1,746

5 有価証券の時価情報

債券を中心に安全性を重視した有価証券運用を行っています。しかしながら、世界的なインフレ懸念の高まりを受けて、国内外の市場金利が上昇したことなどから、保有有価証券全体での評価損が85億円となっています。

■満期保有目的の債券で時価のあるもの

（単位：百万円）

	令和5年3月末					令和5年9月末				
	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	うち益	うち損	貸借対照表 計上額	時 価	差 額	うち益	うち損
満期保有目的の債券	27,866	28,113	246	360	114	31,100	30,972	-128	206	335

（注）時価は期末日における市場価格等に基づいています。

■その他有価証券で時価のあるもの

（単位：百万円）

	令和5年3月末					令和5年9月末				
	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	うち益	うち損	貸借対照表 計上額	取得原価	差 額	うち益	うち損
株 式	10,487	6,300	4,186	4,207	21	12,983	6,992	5,991	6,001	9
債 券	341,027	349,177	△ 8,150	698	8,849	351,571	366,101	-14,530	365	14,895
その他	76,832	77,161	△ 328	2,726	3,055	81,198	81,119	79	3,960	3,881
合 計	428,346	432,639	△ 4,293	7,633	11,926	445,753	454,212	-8,459	10,327	18,787

（注）貸借対照表計上額は期末日における市場価格等に基づいています。

※計数は、単位未満を切り捨てて表示しています。

※令和5年9月末の計数は、会計監査人の監査を受けていません。

トピックス

●文化芸術振興事業 絵画の公開制作

当金庫では、創立 100 周年記念事業の一環で横浜市文化基金に寄付を実施。寄付金により横浜市では当金庫の希望も受けて地元ゆかりの浅井裕介氏に作品制作を委嘱しました。また、浅井氏の意向で本店営業部、市場支店、鶴ヶ峰支店の 3 店舗のロビーで公開制作を行いました（写真は本店営業部）。

絵画は縦約 3 メートル、横 4 メートルで市内各所の土を主な原料とする絵の具を使用、完成後は横浜美術館に収蔵される予定です。



●横浜市・横浜市社会福祉協議会への寄付

当金庫では、社会福祉の向上に役立てていただくため、横浜市「よこはま夢ファンド」、および横浜市社会福祉協議会「善意銀行」に寄付を行いました。地域社会の発展に貢献するため、これからもさまざまな CSR 活動に積極的に取り組んでまいります。



営業店トピックス

当金庫では、地域イベントへの参加やロビー展の開催など、地域とのコミュニケーションを大切にしています。ホームページでは、各営業店の取組みを紹介しています。

●川崎支店

8 月 20 日、4 年振りの開催となった女躰神社の祭礼に神輿の担ぎ手として参加しました。



SDGs への取組みについて

横浜信用金庫は、地域社会の一員としてSDGsへの取組みを通じ、地域課題の解決と持続可能な社会の実現に努めます。

当金庫は、さまざまな金融サービスの提供や環境経営の推進、地域と連携した取組みにより、横浜市のSDGs認証制度“Y-SDGs”において、最上位(Supreme)の認証を取得しています。

